



〈新刊紹介〉左右田喜一郎著 「經濟法則ノ論理的性質」(獨逸文)

福田, 徳三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(3):509-516

(Issue Date)

1911-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051776>



新刊紹介

左右田喜一郎著

經濟法則ノ論理的性質 (獨逸文)

チュービンゲン國家學研究叢書第十七冊

ストットガルトエンケ書店出版 千九百十一年

編輯主幹フツクス序文二頁。自序九頁。本文一三〇頁。

價、假綴五麻克

本書原名ヲ Die logische Natur der Wirtschaft

「*Die logische Natur der Wirtschaft*」ト稱シ、英國商政史、經濟原論等ノ著者トシテ近來我邦ノ經濟初學生ノ間ニモ其名熟知セラル、チュービンゲン大學經濟學教授(三) Johannes Fuchs 氏ノ主幹セル Tübingen Staatswissenschaftliche Abhandlungen ノ一冊トシテ收容セラレタルモノナリ。本書ノ性質竝ニ成立ノ由來ハフツクス氏ノ序文ト著者ノ自序トニ明ナル如ク著者ノ舊著 *Geld und Wert* ニ顯ハレタル新説ヲ更ラニ一層布演シ著者其後ノ研究ノ要領ヲ

述ベタルモノニシテ、殊ニ Rirkart 教授ノ Die Grenzen der natur wissenschaftlichen Begriffsbildung 其他ニ於ケル哲學說中 Methode ニ關スル論ヲ出立點トシ同クフツクス氏及ピリツカート氏ノ門弟ニシテ現チユビンゲン大學私講師タル Ludwig Stephinger 氏ノ著 Zur Methode der Volkswirtschaftslehre 及ヒ Der Grundgedanke der

Volkswirtschaftslehre ノ二書ニ於ケル說ニ反對シテ自家ノ見ヲ立テタルモノナリ。
本書内容ハ緒論、自然法則論、史的法則論、國民經濟概念ノ論理的前提トシテノ貨幣概念、經濟法則論、結論ノ六部ニ分ツ。而シテ著者自ラ第四章ノ終ニ掲ゲタル表ニヨリテ其歸着點ヲ知ルヲ得可シ。即チ左ノ如シ。

自然法則

因果法則(最狹義ノ法則)
經驗法則(自然法則的又ハ自然科學的)

自然科學的、經驗的概則
文化科學的、經驗的概則

史的法則
(史的經驗法則)

經濟法則
(經驗法則、規則
正シキコト)

予ハリツカート氏ノ哲學ハ其一端ヲモ窺ヒシコトナク、又タステフキンガー氏ノ著者ハ一讀シタルコトモ否一見シタルコトモナキガ故ニ、此等兩氏ト本著者トノ間ニ於ケル所論ノ相違又タ其優劣ヲ判斷スル資格ヲ毫モ有セザルモノナリ。著者ノ舊著貨幣ト價值ハ此書ノ如ク格別ニ

某々氏ノ說ヲ標的トシタルモノニアラザレバ予ハ讀ンデ其議論ヲ諒解スルヲ得從テ之ヲ評隲スルヲ敢テシ得可シト自信スレドモ此新著ニ對シテハ此事稍々困難ナルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ而シテ此書ノ讀者ノ大多數ハ予ト感ヲ同フスルコト、思フ。予ハ此一事ヲ本書ノ爲ニ深ク惜ム

モノニシテ、著者ノ多大ノ勞ハ、或意味ニテハ、樂屋落^レニ丁レルモノト感ゼザルヲ得ズ。元ヨリ年々歳々出版セラル、新著述ハ一切ヲ通ジテ之ヲ讀破シ置クニ如クハナカル可シ。然レドモ人間ノ精力ニハ際限アリ、殊ニ我々日本人ハ西洋ノ書物ノミヲ讀ミテ足ル西洋學者ニ比シテハ遙カニ不利ノ地位ニアルモノニシテ、又々獨逸學者ノ或ルモノ、如ク獨逸書ノミヲ讀ミテ事足ル能ハザルナリ。サテ著者ハ讀者ガリツカート氏ニ通ズルコト經濟學者ノシユモラー氏ニ於ケル如クナル可シト前提シテ懸ル様子ナルハ何ノ道少々無理ナル次第ニハアラザルカ。予ハ常ニ思ヘリ自己ノ専門トナラバ如何ニ價値少キ書ナリトモ出來得ル限リハ通讀シ置キタシ専門以外ノモノハ斷ジテ第二流ヲ取ラズ其道ノ人々ガ異句同音ニ推重スル第一流者ノモノ、ミヲ見ル可シ然ラザレバ時ニ甚シキ誤ニ陥ルコトナキヲ保セズト、予ハ今此文ニ筆ヲ執リツ、アル夏休ノ逸

居中敬友算法學博士ヨリ惠贈セラレタル佛教哲理ヲ讀ミツ、アルモノナル故思ヒ付キテ一例トス可シ。筧君ハ法理學ノ大家ナレバ其法理論ハ必ズ日本ノ學者トシテハ一應知リ置カザル可カラズ然レドモ筧君ハ佛教哲學者トシテハ此度始メテ(論文ハ姑ク置キ)世ニ出タル人ナレバ第何流ナルヤ未ダ其道ノ人々ノ品隘ヲ聞カズ故ニ予ハ博士ノ佛理論ハ徹頭徹尾懷疑的態度ヲ以テ聽キツ、アルナリ。正直ニ告白スレバ予ハ博士ノ臨濟四料簡ノ解說ニハ殆ンド八九分ノ敬服ヲ拂ヒツ、アルモノナレドモ其他ノ點ハ未ダ之ヲ諒解スル能ハザルモノ甚ダ多ク諒解シテ而シテ大ニ疑フモノ十二五六ナルナリ。サテ今假リニ筧博士ノ讀者ノ中博士ノ佛教哲理ヲ出立點トシテ研究ヲ企ツル人アリトセンカ、予ハ其人ノ同ク樂屋落ニ陥ルナランヲ恐ル、ナリ。ソレヨリモ佛教哲理ノ研究ニハ佛學ニ沒頭スル專門者流ノ說ヲ土臺トシテ研究ヲ試ムルコト更ラニ效多カ

可シ、予等ノ如ク別ニ研究ノ志ハナク唯々法
理學者寛君其人ガ佛敎ノ哲理ニ對シ如何ノ見解
ヲ持スルヤヲ知り置カント欲スルマデノ讀者ニ
ハ同君ノ新著ハ實ニ趣味津津々或ル部分ハ殆んど
卷ヲ置クニ忍ビザルモノアルナリ。予ハ今左右
田君ノリツカート本位ノ哲學論ニ對シテモ寛君
ノニ於ケルト全ク同様ノ感想ヲ有スルモノナリ
殊ニ著者ト予トハ嘗テハ師弟タリシ因縁モアレ
バ著者滯歐七年ノ結果如何ナル見地ニ到達シタ
ルヤヲ知ルヲ得ルコトハ甚ダ興味アルコトナレ
ドモ此クノ如キ事情ナキ人本書ヲ讀マバ予ハ其
人ノ必ズ甚ダ困却ス可キヲ覺エザルヲ得ザルナ
リ。予此ク云フモ決シテ本書ノ價值ヲ輕減スル
次第ニハアラズ。唯若シ此書ガ嘗テ世界ヲ搖ガ
シ若クハ現ニ動カシ將來ニ動カサントシツ、ア
ル學說ヲ^レ出立點トシタリシナラバ、否更ニ進ン
デ一切ノ所依ナク縱橫無盡ニ著者天來ノ思想ヲ
披瀝シタリシナラバ、我經濟學ハヨリ多キ賜ヲ

得タルナル可シト感ズルノミナリ。唯西洋、唯獨
逸、唯フライブルグ、チュービンゲン、唯リツカ
ート、フツクスニ就テナラバ極東遠來ノ學者ヲ
煩ハスマデモナキコトナラズヤ。斯ク云ヘバト
テ予ガ此等以上ノマトヲ自ラ爲シ得ルト云フ意
ニアラズ、左右田君ノ如キ遠大ノ抱負ヲ有シ英
俊ノ天才ヲ有シ、アラユル講學上ノ便利ニ取卷
カレ居ル人ノ七年研究ノ上ニ就テ云フノミ。
次ニ予ノ強ク感ズル所ハ著者ガ論理的研究ヲ
重ズル烈度はナリ。經濟學近來ノ研究ハ此方面
ニ於テ甚ダ缺如タルニ就テハ予ハ著者ト見ル所
ヲ同フスルモノナレドモ此書百三十頁悉ク論理
ニ終始シ史的法則ヲ論ズルニ於テモ一モ史的事
實ニ接觸スルコトナク例トシテ僅カニ三四箇所
「カルテル」ノ事ナド舉ゲアレドモ著者ハ此ヲ如
何ニ見ルヤ一向窺ヒ知ルコトヲ得ザルナリ。予
ハ性癖上空論ヲ好ミ抽象ノ文字ヲ臚列スルヲ愛
スルコト人後ニ落チザルモノナルガ、本書ノ抽

象性ニハ甚ダ以テ困却セルモノナルヲ告白セザル可カラズ。斯クテハ著書ノ自序ニ地代ト物價ニ就テノ舊說ヲ難シタル言ハ其儘著者自ラ甘受セザル可カラザルニ至ラザルカヲ疑フ。經濟學ノ根本概念ヲ取扱ヒタル中フイマン先生ノ書ノ如キハ抽象ノ最ナル一ナル可シ。而モコレヲ左右田君ニ比スレバ莫大ノ相違アルヲ覺フ。否、シユムペーター」スラモ左右田君ヨリハ稍々苦シサ少シ。予ハ此點ニ於テ著者ニ對シ「回レ右」ノ必要ナキカノ商量ヲ苦言セント欲スルモノナリ。「貨幣ト價值」ヲ熟讀シタルノ後予ハ思ヘリ著者ハ更ラニ研究ヲ進メテ價值論ニ突入シ「カント」若クハ「フエヒナー」ヲ經過シテ希臘哲學ニ肉薄スルカ又ハ「ベルグソン」ヲ布キ來ツテ「ライケン」萬能ノ獨逸學者ノ膽ヲ破ル可キ新 Evolution creatrice ヲ遂グ可キカト。而シテ今受クル所ハ經濟法則ノ論理論ナリ。予ハ根本的ニ失望シタルコトヲ正直ニ告白セザル能ハザルナ

リ。然レドモ是レ私情ノミ。雜誌上ノ批評家トシテハ予ハ更ニ客觀的ニ本書ヲ評論セザル可カラズ。

サテ右ノ點ヲ別トシテ一ノ研究論文ニ對スル一批評者トシテ本書ヲ見レバ先第一ニ擧グ可キハ本書ハ著者ノ舊著ニ比シ遙カニ穩健ノ態度ヲ執レルコト此ナリ。勿論「ボレミック」ハ隨處ニアレドモ必ズ叮嚀ニ其立場ノ相違ヲ詳説シ反對者ヲ取扱フコト甚ダ「ミニナリ。其結果トシテ舊著ニ就テ予ガ缺點ナリト評シタル立論ノ錯雜ハ一モ之ヲ見ザルナリ。換言スレバ「Disposition」ノ點ニ於テ舊著ヲ五〇ト評價スルトキハ本書ハ確ニ九〇以上ノ評價ヲ値スト信ズ。而シテ本書ハ讀ミ易キコト亦右ノ比例ニ於テ舊著ニ勝レリ。否行文甚ダ流暢（舊著モ決シテ晦澁ニハアラザリキ）卷首ヨリ卷尾マデ殆ンド一氣ニ讀過スルヲ得ルナリ。難解ノ箇所ハ一箇所モナシ。而シテ思想ノ組立之ヲ適當ノ處ニ於テ適當ニ言表ハ

スノ工夫ニ至テハフツクス先生ノ經濟原論ト多ク遜ラザルガ如シ。著者ノ獨逸文ニ於ケル所謂情意双絶子ハ日本人ニシテ此種議論文ヲ斯クマデ外國文字ヲ以テ書キ流シタルヲ讀ミタルコトナシ。例ノ序ニ云ヘバ寛博士ノ日本文ノ方却テ讀ミ難キ所アルナリ(予自ラハ無論問題外トシテ)。又タ引照モ徒ラニ繁雜ナラズ必ズ著者ガ一度ハ讀了シ其多クハ執筆ノ際一々照合シタルモノ、ミヲ掲ゲタリ。此點ニ於テハ日本中何レノ圖書館ニモナキ書名(ノミ)ヲ數多ク註記シタル書ノ方却ツテ遙カニ deutsch-pedantisch ナリト云フ可シ。但シ「リツカートジムタル」「グキンデルバンド」ガ殆ンド三分ノ一以上(別ニ計算シタル譯ニハアラザレドモ)ヲ占ムルハ本書成立ノ事情上已ムヲ得ザル所ナル可シト雖モ聊カ目障リナラザルニアラズ。

サテ本書立論ノ大體ニ就テ一言センニ、貨幣ヲ以テ現今經濟生活一切ノ概念ノ中心トス可ク

一律ノ定義ヲ以テ自然經濟ノ概念マデモ網羅セント企ツルハ不可ナリト著者ノ説ハ予ハ全然同意見ナリ。此點著者ガ(八十四頁)ニ於テ予ヲ反對論者ノ一人ニ指名セラレタルハ全ク誤ナリ從テ拙著經濟學研究ノ引照ハ安ナリ。予ハ著者ノ官能價值論ニ反對シ信用券ヲ貨幣トスルニ反對スルモ貨幣中心論ニハ全然同意スルモノナルコトハ拙著經濟學講義ニ於ケル予ガ議論ヲ一讀スレバ分ルコトナリ。猶近刊ス可ク既ニ大部分印刷濟ナル拙著經濟學教科書ニハ一層簡單ニ而シテ明白ニ此思想ヲ述ベ置キタリ。而シテフツクス先生ガ本書ノ序ニ Das entgeltliche ヲ一層強ク重視スル必要ヲ感ジツ、アリト言ハレタルハ亦予ガ近時思想ノ傾向ト全ク同ジ。此點モ經濟學講義ニ述ベアリテ、而シテ教科書ニハ更ラニ確實ニ有價的ト云フコトヲ中心トナシアルナリ但シ貨幣ハ客觀的表彰交換要具ナリトノ定義ニハ反對ナルコト勿論ナリ(交換ノ要具ハ交換財

ナリ貨幣ヲ交換ノ要具ト云フハ文字ノ使用ヲ誤レルモノニアラザルカ)教科書ニ於テハ予ハ價值移轉ノ媒介物ナリト定義シ置ケリ。猶此點ハ著者ニ於テ反駁アレバ一々典據ヲアゲテ答辨ス可キ也。著者ノ「媒介價值」ノ説ハメンガー先生ノ改説 Tauschmittler ト共ニ予ハ大ニ敬聽スル所ニシテ其方面ニ向テ改説シツ、アルナリ。

之ニ反シ經濟法則ニ就テハ予ハ著者ト見解ヲ異ニスル點多々アルナリ。併シ著者ガ自説ヲ打立ツルニ用タル構想ハ大ニ成效シタルモノニシテ、予ハ熟考ノ上其全部若クハ一部ニ服従スルニ至ルヤモ計ラレザルナリ。此點ニ於テハ河上法學士ハ予ヨリモ遙カニ多ク著者ニ近ク而シテ行想ノ學術的基礎ノ堅固ナルコトニ於テ予ヨリモ遙カニ多ク著者ニ似タリ。思フニ河上氏ニシテ本書ヲ見ルコトアラバ日本人ニモ此クノ如キ説ヲ爲ス人アルカト或ハ喜ビ或ハ驚クコトナル可シ。サレバ本書ニ對スル純學問的批評ヲ下ス

可キ人ハ日本ニ於テハ河上君ナル可シ。予ハ其資格ナキコトヲ耻ヂ且ツ歎ゼザルヲ得ザルナリ貨幣論ニ就テハ山崎博士モ近來著シククナツテ先生ノ説ノ或點ニ近ツキ來リ Zönnichist ヲ以テ自ラ許サルレバ著者ノ説ノ此部分ハ予以外少クトモ猶一人ノ賛成者アル譯ナリ。

サテ著者ノ經濟法則論ト貨幣中心論トノ交渉ハ本書ニテハ未ダ餘蘊ナキマデニハ説キアラズ或點ニ於テハ recht unvernünftigst heinspringen スルナリ。此處ハ著者ノ舊著ニ就テ感ジタル所ヲ再ビ想出サルヲ得ズ。曰ク、忍耐シテ説明スルヲモドカシトシテ「ソナコトハ言ハズトモ分ツテ居ル」ト言ハン計リノ態度アルコト是ナリ。猶序ニ申ス、「アナロギー」論ノ處日本美術云々ノ註釋(五十八頁)ハ誰人ノ説ナルヤ知ラザレドモ正倉院樹下美人ヲ日本ノ特産物ナド、考フル西洋人ノ説ナリトスレバ一向感服セズ特ニ及劔論ニ至テハ餘リニ西洋臭キコトヲ言ハル

ルモノ哉ト思フ。而シテ此等ハ「アナロギー」ノ例トス可キモノナリヤ論理上果シテ如何。

以上予ハ忌憚ナク所見ヲ開陳セリ、讀者或ハ此文ヲ讀ミテ本書ヲ讀ムノ志ヲ減ズルコトアラバ不本意モ亦太甚シ。予ハ著者ト其學問トヲ熟知スルモノナレバ別ニ本書ノ爲ニ廣告ヲナスノ必要ヲ感ゼズ、唯ダ自ラ見ル所ヲ寸毫モ修飾セズ卒直ニ記錄シタルナリ。フツクス先生ノ序文ハ極メテ簡潔ナレドモ本書ノ學術的價値ノ大ナルコト、最近斯學ノ新潮流ニ棹ス著者ノ立場ノ那邊ニアルカヲ宣揚シテ餘蘊ナシ。予ガ蛇足ヲ添フル必要ハ全く之ナキ也。著者ガ若シ他人ナリシナラバ予ハ斯クノ如キ批評文ヲ遠慮シタルヤモ知レザルナリ。サレバ讀者ハ此拙文ニ著シク「プレミウム」ヲ附シテ本書ヲ受取ラレンコトヲ希ハザル可カラザルナリ。

(福田徳三)